

教科	国語	科目	国語表現	単位数	4
科目の目標	(1) <b>実社会に必要な国語</b> の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で <b>伝え合う力</b> を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、 <b>言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度</b> を養う。				
使用教科書・副教材	国語表現（大修館） 新版チャレンジ常用漢字（第一学習社）				
学習上の留意点	(1) 単元試験：単元ごとに試験を行います (2) 課題提出：単元ごとに課題が出されます。締め切り前に必ず出しましょう (3) 小テスト：漢字の書き取り等を行います				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法
	A 十分にできる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 小テスト 学習課題 50%
思考・判断・表現 【思】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	単元試験 提出物 学習課題 30%
主体的に学習に取り組む態度 【主】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	十分にできる(^o^)	おおむねできる😊	あまりできない😞	学習課題 提出物 意欲・態度 20%

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前	インタビューをしよう	「聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したしする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したしする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 【思】 言葉には、自己と他者の相互理解を深める動きがあることを理解できる。【知】
	書いて伝えよう	「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしようとしている。	目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすることができる。【思】
	自分の考えを書こう	「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫しようとしている。	読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫することができる。【思】 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けることができる。 【知】
	資料を読み取って書こう	「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしようとしている。	目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすることができる。【思】

期	自分の考えを話そう	「話すこと」において、自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫しようとしている。	自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。【思】 思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。【知】
	議論しよう	「話すこと」において、互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。	互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。【思】 言葉には、自己と他者の相互理解を深める動きがあることを理解することができる。【知】
	企画書を作ろう	「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫しようとしている。	自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現の仕方を工夫することができる。【思】 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めることができる。【知】
	具体的に書いて伝えよう	「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫しようとしている。	読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫することができる。【思】 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使うことができる。【知】
	具体的に話して伝えよう	「話すこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫しようとしている。	自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫することができる。
後 期	効果的に書いて伝えよう	「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしようとしている。	読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。【思】
	自分の思いを明確にし、事象を的確に表現しよう	「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫しようとしている。	自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫することができる。【思】
	資料を読み取って書こう2	「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしようとしている。	目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にすることができる。【思】
	資料を読み取って話そう	「話すこと」において、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討しようとしている。	目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。【思】
	画像を描写しよう	「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫しようとしている。	自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫することができる。【思】
	自説と比較して聞こう	「聞くこと」において、論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【思】
	相手の反応を見て話そう	「話すこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫しようとしている。	相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫することができる。【思】
	画像を描写しよう2	「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫しようとしている。	自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫することができる。【思】

教科	地理歴史科	科目	地理総合	単位数	2
科目の目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。				
使用教科書・副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理総合 世界を学び、地域をつくる（第一学習社）</li> <li>・基本地図帳 改訂版（山川出版社）</li> <li>・地理総合ノート（第一学習社）</li> </ul>				
学習上の留意点	常に、世界の中の日本を意識させ、世界との関わりについてを立体的に見て考えることをめざす。				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法	
	A 十分理解できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する		
知識・技能 【知】	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	評価の観点（知識・技能）について、十分な理解と活動をした。	評価の観点（知識・技能）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（知識・技能）について、理解、行動ともに不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・ノート提出</li> <li>・小テスト</li> </ul>
思考・判断・表現 【思】	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（思考・判断・表現）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その取り組みは、不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・ノート提出</li> <li>・小テスト</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度 【主】	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、その取り組みは、不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・ノート提出</li> <li>・小テスト</li> </ul>

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図 ①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図 ⑦地理情報システムの活用	・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたこと、地球の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、教科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。・メルカトル図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。・インターネットを使ってさまざまなウェブ地図にアクセスし、日常的に使われているGNSSやGISなど、新しい地図表現の役割を理解する。	地球は球体で立体。地図は平面で実際の大きさや面積、距離に正確さがないため本来ではないことに気がついた上で私用することができる。
	小テスト（数回）		
後期	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化してきたかを時系列で理解する。・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起きている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。・グローバル化の中で、人・「モノ」・資本の国際移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。・インターネットショッピングを事例に、情報技術や物流、金融など、さまざまなサービスがかわってくるとを、実体験とともに考える。・貿易の拡大に伴い専用船の開発・普及が進み、コールドチェーンの整備により人々の生活が豊かになっていることを、具体的な実体験を通して理解する。	・国境・領土問題について（特に日本と他国）知る。・人、「モノ」、が国際関係の中で複雑に関係を持っている中で、現在の国際関係がどうなっているのか、日本と他国の状態を知る。
	小テスト（数回）		
	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解	・図書館の本やインターネットから、世界の生活・文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある異郷で成り立っていることを学ぶ。・人々の生活	・国境・領土問題について（特に日本と他国）知る。・人、「モノ」、が国際関係の中で複雑に

	<p>①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候</p>	<p>影響を受けた地域の自然環境や気候について学ぶ。・生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。</p>	<p>関係を持っている中で、現在の国際関係がどうなっているのか、日本と他国の状態を知る。 ・世界の気候とその特徴を知る。</p>
	<p>③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生</p>	<p>・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。・世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づいて形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。・祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。・多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。</p>	<p>・世界の衣食住についての基本を知る。 ・世界の文化についてどのようなモノがあるのかを調べてみる。</p>
	<p>小テスト（数回）</p>		
	<p>第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標（SDGs） ②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題</p>	<p>・5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。・地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを理解する。・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。・人口問題について、先進国の少子・高齢化、発展途上国の人口爆発という対照的な問題が起こっていることを理解する。・食料問題について、食料分配の不等差が飢餓と飽食の地域差を生み出していることを理解する。</p>	<p>・SDGsについて知り、現在直面している問題を捉えながら、どのような取り組みが必要かを考察し、まとめる。</p>
	<p>3節 自然と調和した豊かな社会に向けて ①技術革新と持続可能な産業化 ②限りある資源 ③エネルギー問題 ④都市・居住問題</p>	<p>・持続可能なライフスタイルの実現には、さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解し、身近な認証制度を調べ、まとめることができる。・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。・身の回りに見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。・居住・都市問題について発展途上国ではスラム、先進国ではインナシティ問題などが現れていることを理解する。・通学路や学校周辺の空き家など、身の回りの都市問題に関心を持ち、地域の課題解決に向け学習した内容を振り返ることができる。</p>	<p>・資源・エネルギー問題について、現状ではどのような具体的な課題が存在しているかを知り、その対策として何が考えられるかを考察する。</p>
	<p>4節 現役世代と将来世代のための地球 ①地球温暖化問題 ②陸地の環境問題 ③海洋の環境問題 5節 平和で公正な社会に向けて ①世界の民族と民族問題 ②世界のさまざまな紛争 ③さまざまな対立の解決に向けて ④国際協力とパートナーシップ</p>	<p>・地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。・生物多様性に配慮した持続可能な産業や生活文化が身近なところで営まれていることを理解する。 ・一定地域の地理的環境と深く関連し、長い歴史をとおして育まれた民族性について理解した上で、現在発生している民族問題の解決に向けた取り組みを提案することができる。・国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力についてグローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。・世界の民族とは、共通の帰属意識（アイデンティティ）を持つ集団であり、世界の多くの国は複数の民族により構成される多民族国家であり、多文化社会を構成して多民族が共生している国もあれば、内側に対立を抱える国も存在することを理解できる。・NGOやNPOによる国際協力や、CSRにもとづいた企業の国際協力、消費者の立場で自ら取り組む国際協力など、さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。</p>	<p>・環境問題に対する取り組みを知る。 ・世界の民族問題を知る。</p>
	<p>第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 ①地球規模で見る地形の姿と自然災害 ②人々の暮らしを取りまく自然環境 ③変動帯の自然と防災 ④湿潤地域の自然と防災 ⑤私たちができる災害への備え</p>	<p>・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。・変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島周辺は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。・日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。・変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び、その備えについて具体例を通して理解する。・降水強度の大きい湿潤な日本の気候環境を把握し、地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。・自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。・教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。・生活に影響を与えている気候、局地的な気候について理解し、気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し、グループで話し合う。・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる（減災）できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合う。・自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり、市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして、最も起こりやすいと想定されている災害は何か、また避難時に障害となる場所はどこか、など、地域とそこに住む住民とともに減災に向けて意欲的に取り組む。・自然災害からの復興を困難にする複合災害について具体的な事例を通して理解し、これまで学んだ対策を組み合わせて備えるために必要な行動について考察できている。</p>	<p>・世界の地形を知る。その結果、世界の地形は、何を理由としてどのように変化していくのかを学ぶ。</p>
	<p>2章 生活圏の調査と地域の展望 ①地域調査の方法</p>	<p>・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。・地域調査を通して、地域のさまざまな事象に対し5W1Hの発問を設定して課題を抽出し、その解決策を提案し、共有する。・成人年齢が18歳になることを踏まえ、地域調査を通して、地域の課題に対する地方自治体の政策を調べ、主権者として地域の諸課題を解決する方法について考察を深めることができる。</p>	<p>・地域調査とはそもそも何を目的にどうするのかどうやるのかを学ぶ。</p>

後  
期

教科	地理歴史科	科目	歴史総合	単位数	2
科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
使用教科書・副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来（第一学習社）</li> <li>・新歴史総合ノート（第一学習社）</li> </ul>				
学習上の留意点	常に、世界の中の日本を意識させ、世界との関わりについてを過去から現在まで立体的に見て考えることをめざす。				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法
	A 十分理解できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
<b>知識・技能</b> 【知】 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	評価の観点（知識・技能）について、十分な理解と活動をした。	評価の観点（知識・技能）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（知識・技能）について、理解、行動ともに不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・ノート提出</li> <li>・小テスト</li> </ul>
<b>思考・判断・表現</b> 【思】 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（思考・判断・表現）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（思考・判断・表現）について、その取り組みは、不十分であり、今後もかなりの努力を要すると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・ノート提出</li> <li>・小テスト</li> </ul>
<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 【主】 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、その目的を十分に理解した。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	評価の観点（主体的に学習に取り組む態度）について、おおむね理解し活動することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・ノート提出</li> <li>・小テスト</li> </ul>

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前 期	序章 歴史の扉	諸資料を活用して、私たちが日常的に見たり行ったりしているスポーツと近代化、大衆化、グローバル化などの歴史との関連を考察して表現し、日本と世界の歴史がつながっていることを理解する。 遺物、文書、画像などの資料を活用して、1945年8月15日の「終戦」の持つ意味や意義、特色などを考察して表現し、歴史が資料に基づいて叙述されていることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</li> </ul>
	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄	18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。	
	第2節 工業化の進展と国民国家の建設 第3節 アジア諸国の変貌と日本の開国	産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、</li> </ul>
	第4節 帝国主義の発展	18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、	

		<p>を基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。</p>
	小テスト（数回）	
	第2章 国際秩序の変化や大衆化の私たち 第1節 第1次世界大戦と大衆社会	<p>平等と格差の観点から、鉄道建設と近代化を主題に設定し、諸資料を活用して追究したり解決したりする活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、表現し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。世界一の商店街誕生、国際関係の緊密化と米ソの台頭、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、植民地の独立などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際秩序の変化や大衆化に関する問いを表現する。第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、第一次世界大戦の性格と惨禍、社会主義革命の意味や影響、第一次世界大戦後の国際協調体制の特徴などを、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。</p>
		<p>大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、第一次世界大戦後の社会の変容と大衆社会の形成と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がり理解する。</p>
	第2節 経済危機と第二次世界大戦	<p>世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策、第二次世界大戦の勃発などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦の勃発の背景に関する事柄を理解する。</p>
	第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	<p>アジア太平洋戦争の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。</p>
		<p>統合と分化の観点から、ナショナリズムと国際秩序の変化や大衆化を主題に設定し、諸資料を活用して追究したり解決したりする活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、表現し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。</p>
		<p>“多国籍軍”のサッカーチーム、高度情報通信、多様な人々の共存、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化に関する問いを表現する。</p>
	第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	<p>脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。</p>
		<p>西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。</p>

後  
期

概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。

・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2節 世界秩序の変容と日本	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、冷戦の終結などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。	
	民主化の進展、地域統合の拡大と変容、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、歴史的な見方・考え方を活用しながら、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	
	歴史総合の学習のまとめとして、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、構想、表現し、歴史的経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解する。	
小テスト（数回）		

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4単位(週4時間・年間140時間)
科目の目標	<p>(1)数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに,事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3)数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善をしたりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>				
使用教科書・副教材	新編数学Ⅱ（数研出版）      パラレルノート数学Ⅱ（数研出版）				
学習上の留意点	<p>(1)問題解決に至る過程の正しさが重要なので,計算・作図などの計算過程はしっかり書くようにする。(記述する力をつけよう)</p> <p>(2)授業用ノート,問題集(書き込み式)は定期的に提出する。(点検・評価します)</p> <p>(3)学習内容の定着を確認するために,単元テストや小テストを実施する。(確認・評価します)</p>				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
<b>知識・技能【知】</b> ・いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分積分についての知識が身についている。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が身についている。	・いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分積分についての知識が概ね身についている。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が概ね身についている。	・いろいろな式,図形と方程式,指数関数・対数関数,三角関数及び微分積分についての知識が十分に身につけていない。 ・事象を数学的に表現・処理する技能が十分に身につけていない。	・単元テスト ・小テスト など
<b>思考・判断・表現【思】</b> 数の範囲や式の性質に着目し,等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力,座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し,方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり,図形の性質を論理的に考察したりする力,関数関係に着目し,事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力,関数の局所的な変化に着目し,事象を数学的に考察したり,問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が身についている。 ・事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考える力が身についている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身についている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が概ね身についている。 ・数学を活用して事象を論理的に考える力が概ね身についている。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が概ね身についている。	・数学を活用して事象を論理的に考える力が十分に身につけていない。 ・数学を活用して事象を論理的に考える力が十分に身につけていない。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が十分に身につけていない。	・単元テスト ・授業での活動 など
<b>主体的に学習に取り組む態度【主】</b> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善をしたりしようとしている。	・数学を活用しようとしたり,粘り強く考えることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深め,評価・改善をすることができる。	・数学を活用しようとしたり,考えることが概ねできる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めることが概ねできる。	・数学を活用しようとしたり,考えることが十分にできない。 ・問題解決の過程を振り返って考察をすることが十分にできていない。	・授業への取組 ・課題 ・ノート ・提出物 など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第1章 式と証明 1 式と計算 2 等式・不等式の証明 単元テスト	三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し計算することができる。	三次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いた計算,多項式の除法や分数式の四則計算ができる【知】 既に学習した数や式の計算と関連付けて多面的に考察することができる。簡単な等式や不等式を証明することができる【思】
	第2章 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解 2 高次方程式 単元テスト	数を複素数まで拡張する意義を理解し,数の見方を豊かにするとともに,因数定理などについての理解を深め,簡単な高次方程式の解を求めるなどそれらを活用できる。	複素数の四則計算,二次方程式の解と係数の関係,また因数定理を理解し,簡単な高次方程式の解を求める【知】 日常の事象を数学的に捉え,方程式を問題解決に活用することができる【思】
	第3章 図形と方程式 1 点と直線 2 円  (夏休み明け) 単元テスト	座標平面上の線分について,内分点・外分点の位置や二点間の距離,また直線や円を方程式で表すことができるとともに,図形の性質や位置関係について考察することができる。	座標平面上の線分について,内分点・外分点の位置や二点間の距離,また直線や円を方程式で表すことができる【知】 座標平面上の図形を方程式を用いて表現し,図形の性質や位置関係について考察することができる【思】
	3 (軌跡と) 領域 単元テスト	軌跡について理解し,簡単な場合について軌跡を求めることができる。簡単な場合について,不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。	簡単な場合について,不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる【知】 数量と図形との関係などに着目し,日常の事象を数学的に捉え,問題解決に活用することができる【思】
後期	第5章 指数関数・対数関数 1 指数関数 2 対数関数 単元テスト	有理数まで拡張した指数法則を用いて数や式の計算をすることができたり,簡単な対数の計算ができるとともに,指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。	指数法則を用いて数や式の計算をしたり,簡単な対数の計算をすることができる【知】 指数と対数を相互に関連付けたり,指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる【思】
	第6章 微分法と積分法 1 微分係数と導関数 2 関数の値の変化 単元テスト	微分係数や導関数の意味について理解するとともに,導関数を用いて関数の増減やグラフの概形をかくことができる。関数の局所的な変化に着目し,日常の事象を数学的に捉えて問題を考察したり解決したりすることができる。	関数の導関数を求め,導関数を用いて関数の増減やグラフの概形をかくことができる【知】 関数と導関数との関係について考察することができる【思】
	3 積分法  (冬休み明け) 単元テスト	不定積分と定積分の意味を理解した上で,微分と積分の関係に着目し積分の考えを用いて直線や曲線に囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。	関数の不定積分や定積分を求めることができる【知】 直線や曲線に囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる【思】
	第4章 三角関数 1 三角関数 2 加法定理 単元テスト	一般角まで拡張した三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解しているとともに,三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。加法定理や2倍角の公式,三角関数の合成について理解できる。	一般角の三角関数の値を出しグラフがかける。加法定理や2倍角の公式が使える,三角関数の合成を用いて変形できる【知】 三角関数の式とグラフの関係について,また様々な公式について多面的に考察することができる【思】
	演習問題		

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
科目の目標		生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う			
使用教科書・副教材		生物基礎新訂版（実教出版） 生物基礎新訂版エブリィノート（実教出版）			
学習上の留意点		(1) 授業ノートは定期的に点検・評価します。 (2) 問題集(書き込み式)は定期的に提出する。(点検・評価します) (3) 定期試験の他に小テストを実施する。(実力の定着を確認し、評価します) (4) 実験行ったときは原則レポートを書き、提出する。(点検・評価します)			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】 ・生物の特徴、ヒトの体の調節、生物の多様性や生態系の概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身につけている。	・生物の特徴、ヒトの体の調節、生物の多様性や生態系の概念や原理・法則などを十分理解している ・科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を十分に身につけている。	・生物の特徴、ヒトの体の調節、生物の多様性や生態系の概念や原理・法則などを概ね理解している ・科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を概ね身につけている。	・生物の特徴、ヒトの体の調節、生物の多様性や生態系の概念や原理・法則などを満足に理解できていない。 ・科学的に探究するための必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を満足に身につけていない。	小テスト 学習課題 レポート など
思考・判断 ・表現 【思】 生物の特徴、ヒトの体の調節、生物の多様性や生態系について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	・事象を科学的に考える力が十分に身についている。 ・他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考える力が十分に身についている。 ・事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が十分に身についている。	・事象を科学的に考える力が身についている。 ・他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考える力が身についている。 ・事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身についている。	・事象を科学的に考える力が満足に身につけていない。 ・他の事象との関係を認識し総合的・発展的に考える力が満足に身につけていない。 ・事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が満足に身につけていない。	学習課題 レポート 授業へ取り組み姿勢 など
主体的に 学習に取り組む態度	生物の特徴、ヒトの体の調節、生物の多様性や生態系に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている	生物に主体的に関わり、事象に対して科学的に探究しようとしている態度が十分に見られる	生物に主体的に関わり、事象に対して科学的に探究しようとしている態度が概ね見られない	学習課題 授業へ取り組み姿勢 授業ノート

【主】	る。			提出 など
-----	----	--	--	----------

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
後 期	第1章 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解すること。</li> <li>・ 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解すること。また、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連づけて理解すること。</li> <li>・ 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。</li> </ul>	<p>生物の共通性と多様性や生物とエネルギーについて理解する。また観察実験における基本的技能について習得する</p> <p>【知】 生物の共通性と多様性や生物とエネルギーについて、探究し、科学的に考察し、表現する【思】【主】</p>
	第2章 遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解するとともに塩基の相補性とDNAの複製を関連づけて理解すること。</li> <li>・ 遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解すること。</li> <li>・ 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。</li> </ul>	<p>遺伝情報とDNAについてや遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。また観察実験における基本的技能について習得する【知】</p> <p>遺伝情報とDNAについてや遺伝情報とタンパク質の合成について、探究し、科学的に考察し、表現する【思】【主】</p>
	第3章 ヒトのからだの調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解すること。</li> <li>・ 体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解すること。また、体内環境の維持を自律神経と関連づけて理解すること。</li> <li>・ 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解すること。</li> <li>・ ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節および免疫などの特徴を見いだして表現すること。</li> </ul>	<p>情報の伝達、体内環境の維持の仕組み、免疫の働きについて理解する。また観察実験における基本的技能について習得する【知】</p> <p>情報の伝達や体内環境の維持の仕組み、免疫について探究し、科学的に考察し、表現する【思】【主】</p>
	第4章 生物の多様性と生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解すること。</li> <li>・ 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関連性を見いだして表現すること。</li> </ul>	<p>植生と遷移について理解する。また観察実験における基本的技能について習得する</p> <p>【知】 植生と遷移について探究し、科学的に考察し、表現する【思】【主】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解すること。また、生物の種多様性を関連づけて理解すること。また、生物の多様性と生物間の関連性とを関連づけて理解すること。</li> <li>・生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解すること。また、生態系の保全の重要性を認識すること。</li> <li>・生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関連性を見いだして表現すること。</li> </ul>	<p>生態系と生物の多様性についてや生態系のバランスと保全について理解する。また観察実験における基本的技能について習得する【知】</p> <p>生態系と生物の多様性についてや生態系のバランスと保全について探究し、科学的に考察し、表現する【思】【主】</p>
--	--	--

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3
科目の目標		・運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになる。運動の多様性や体力の必要性について理解できる。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲が育つ。健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
使用教科書・副教材					
学習上の留意点		①他の人の動きを見たり、わからないことを聞いたり、互いに教え合ったりする。 ②練習や試合では積極的に参加する。 ③動画、プリント、課題の提出をしっかりとする。 ④安全に授業を進めるために勝手な行動をしない。			

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	各種の運動の行い方を理解し、言ったり書いたりしている。また、基本的な動きや技能を身に付けている。	各種の運動の行い方を理解し、基本的な動きや技能が身に付いている。他の生徒に教えたりアドバイスを聞いている。課題やレポートなどをわかりやすく作成している。	各種の運動の行い方や技能が概ね身に付いている。わからないことを聞いたりしてわかるうとしている。課題やレポートの作成ができている。	各種の運動の行い方や技能が不十分である。わからないことをそのままにしている。課題やレポートの作成が不十分である。	単元テスト、実技テスト、小テストなど
思考・判断・表現 【思】	自己の運動の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	自分の課題が何なのか理解し、その解決のためにはどうしたらよいか考え、活動を工夫している。工夫してできたことを他者にわかりやすく伝え、他の意見を尊重することができる。	自分の課題解決のために他者の意見を聞きながら活動を工夫している。自分の意見や考えを深めることができている。	自分の課題が何なのかわからず、活動が不十分である。他者の意見や考えを尊重することができていない。	単元テスト、レポート、プレゼンテーションなど
主体的に学習に取り組む態度 【主】	運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、運動に進んで取り組もうとしている。	運動の楽しさや喜びを味わうために他者のことも考えて積極的に運動に取り組んでいる。レポート等の提出がしっかりとできている。	運動の楽しさや喜びを味わいながら運動に取り組んでいる。レポートの提出ができている。	運動の楽しさや喜びを味わえず、積極的に運動に取り組んでいない。レポートの提出が不十分である。	授業の参加状況、課題・提出物など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	①体育理論 ②体づくり運動・体ほぐし運動・体力を高める運動 ③陸上競技(短距離走、長距離走、走り幅跳び) ④ソフトボール	・主体的に取り組んでいる ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩  ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしている ① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。【知】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断するとともに、他者に伝えている。【思】スポーツの特性や発展についての学習に自主的に取り組んでいる。【主】  ②体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組む、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、互いに高め合い、一人一人の違いに応じた動きを大切に、健康安全を確保している。【主】  ③技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。スピードを維持して速く走れる。ペースの変化に対応して走れる。踏切から着地までの動きを滑らかにして跳べる。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、ルールやマナーを大切にしている。自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた動きを大切に、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間	・フェアなプレイを大切にしている ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	④技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。バット、グラブ、ボールの操作を状況に応じて行っている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】
	⑤バレーボール ⑥サッカー	・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしている ⑦  ・よい演技を讃えようとしている ⑨ ⑩	⑤⑥⑧技術の名称や行い方、課題解決方法、競技会の仕方について理解している。ボール操作と状況に応じたプレーをしている。【知】チームや自己の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫し、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしている。互いに助け合い高め合い、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間		
後期	⑦武道 ⑧バスケットボール	・互いに助け合い教え合おうとしている ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩  ・自己の責任を果たそうとしている ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩  ・話し合いに貢献しようとしている	⑦伝統的な考え方、技の名称や稽古の仕方、課題解決方法や試合の仕方について理解している。相手の動きの変化に応じた基本動作から得意技を用いて攻防している。【知】自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて工夫をして取り組み、考えたことを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしている。役割を積極的に引き受け自己の責任を果たしている。一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康安全を確保している。【主】
	勉強集中期間	① ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑩	
	⑨マット運動 ⑩ダンス	・一人一人の違いを大切にしようとしている ② ③ ⑨ ⑩  ・健康、安全を確保している ② ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑨基本的な技を安定して行う、条件を変えた技や発展技を行う及びそれらを構成し演技している。【知】自己の課題を発見し、計画的に取り組む方を工夫するとともによい演技を讃え、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組む、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切に、健康、安全を確保している。【主】
	勉強集中期間		⑩表現の仕方、課題解決方法、体力の高め方を理解している。リズムに合わせて、全身を使って表現し、仲間と対応して踊っている。【知】自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて取り組み方を工夫し、考えを他者に伝えている。【思】主体的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとし、健康安全を確保している。【主】

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
科目の目標	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につける。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
使用教科書・副教材	現代高等保健体育（50／大修館／保体701）				
学習上の留意点	①個人、グループで意見を出し合い、学習を進める。 ②発言や話し合いには積極的に参加する。 ③プリント、課題の提出をしっかりとする。 ④インターネットなどを利用して調べ学習を行い、レポートを作成する。				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	身近な生活における健康・安全について理解したことを言ったり書いたりしている。	身近な生活における健康・安全について理解している。他の生徒に教えたり、アドバイスをすることができている。課題やレポートなどをわかりやすく作成している。	身近な生活における健康・安全について概ね理解している。わからないことを聞いたりしてわかっていく。課題やレポートの作成ができていく。	身近な生活における健康・安全について理解が不十分である。わからないことをそのままにしている。課題やレポートの作成が不十分である。	単元テスト、実技テスト、小テストなど
思考・判断・表現 【思】	身近な生活における健康に関する課題を見つけ、その解決を目指して思考判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	身近な生活における健康に関する課題がわかり、思考判断して解決している。また、他者にわかりやすく伝えている。	身近な生活における健康に関する課題がわかり、思考判断しようとしている。自分の意見や考えを深めることができている。	身近な生活における健康に関する課題が何なのかかわからず、思考判断が不十分である。他者の意見や考えを尊重することができていない。	単元テスト、レポート、プレゼンテーションなど
主体的に学習に取り組む態度 【主】	健康を大切にし、自己の健康の保持増進について学習に前向きに取り組もうとしている。	健康を大切にし、自己の健康の保持増進について積極的に学習に取り組む、生活に生かしている。	健康を大切にし、自己の健康の保持増進について考えて学習に取り組んでいる。	健康を大切にせず、自己の健康の保持増進について考えず学習に取り組んでいる。	授業の参加状況、課題・提出物など

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前 期	①事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態や事故発生には人的要因と環境要因が関連していることについて説明できる。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知】  健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的異な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。【思】  生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組んでいる。【主】
	②安全な社会に形成	・安全のために必要な個人行動について、すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について説明できる。	
	③交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと環境整備について、交通事故における責任を説明できる。	
	④応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義や傷病者を発見したときに確認・観察するポイントを説明できる。	
	⑤日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明でき、実際に応急手当ができる。	
	⑥心肺蘇生法	・心肺蘇生法の方法と手順について説明でき、実際に行うことができる。	
	勉強集中期間		
	⑦ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連や各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。	
	⑧思春期と健康	・思春期における体の変化を男女に分けて説明でき、思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。	
	⑨性意識と性行動の選択	・性意識の男女差について説明でき、性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。	
	⑩妊娠・出産と健康	・妊娠・出産の過程における健康問題について説明でき、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスを例をあげることができる。	
	⑪避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と適切な避妊方法や人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	
	⑫結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明でき、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	
	⑬中高年と健康	・加齢にともなう心身の変化や高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	
勉強集中期間			
後 期	⑭働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわりや働き方や働く人の健康問題について説明できる。	
	⑮労働災害と健康	・労働雑質の種類とその原因について説明でき、労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。	
	⑯健康的な職業生活	・職場がおこなう健康に関する取り組みや余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	
	⑰大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康へに影響や大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげ説明できる。	
	⑱水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染とその健康影響や大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生の仕組みについて説明できる。	
	⑲環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法や産業廃棄物の処理について説明できる。	
	⑳ごみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状や上下水道の仕組みと健康にかかわる課題を説明できる。	
	勉強集中期間		
	㉑食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりや食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	
	㉒食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割や個人の役割について説明できる。	
	㉓保健サービスとその活用	・保健行政の役割について説明でき、保健サービスの活用の例をあげることができる。	
	㉔医療サービスとその活用	・わが国における医療保険のしくみやさまざまな医療機関の役割について説明できる。	
	㉕医薬品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用法や医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	
	㉖さまざまな保健活動や社会対策	・国際機関・民間機関などの保健活動や行政機関による社会対策について例をあげて説明できる。	
㉗健康に関する環境づくりと社会参加	・健康の保持増進のための環境づくりや環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。		
勉強集中期間			

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4単位（週4時間、年間140）
科目の目標	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握し、概要や要点を捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握し、概要や要点を捉えたりすることができる。 3. 基本的な文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話したり、書いたりして伝え合える。				
使用教科書・副教材	・ All Aboard II ・ ユメタン0、1 ・ All Aboard II ワークブック				
学習上の留意点	(1) 講義、ペアワーク、作業、発表など様々な手法で学習する (2) 発言や話し合い等には積極的に参加する (3) プリント提出、小テスト等にもしっかり取り組む				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)	観点別学習状況の評価基準			評価方法 割合
	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
<b>知識・技能</b> <b>【知】</b> (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	<b>【L】</b> 話された文等聞いてその内容をとらえる技能を身に付けている <b>【W】</b> 書かれた文等読んでその内容をとらえる技能を身に付けている <b>【Sや】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能を身に付けている <b>【Sは】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能を身に付けている <b>【W】</b> 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている	<b>【L】</b> 話された文等聞いてその内容をとらえる技能を概ね身に付けている <b>【W】</b> 書かれた文等読んでその内容をとらえる技能を概ね身に付けている <b>【Sや】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能を概ね身に付けている <b>【Sは】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能を概ね身に付けている <b>【W】</b> 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を概ね身に付けている	<b>【L】</b> 話された文等聞いてその内容を捉える技能が十分身につけていない <b>【W】</b> 書かれた文等読んでその内容を捉える技能が十分身につけていない <b>【Sや】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う技能が十分身につけていない <b>【Sは】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技能が十分身につけていない <b>【W】</b> 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能が十分身につけていない	検査 休み明けテスト 小テスト など  <b>50%</b>
<b>思考・判断・表現</b> <b>【思】</b> (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	<b>【L】</b> 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点をとらえている <b>【R】</b> 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点をとらえている <b>【Sや】</b> 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている <b>【Sは】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えている <b>【W】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている	<b>【L】</b> 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要要点を概ねとらえている <b>【R】</b> 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要要点を概ねとらえている <b>【Sや】</b> 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったり概ねしている <b>【Sは】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して概ね話して伝えている <b>【W】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して概ね書いて伝えている	<b>【L】</b> 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要要点を捉えられていない <b>【R】</b> 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要要点を捉えられていない <b>【Sや】</b> 情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりが十分できていない <b>【Sは】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることが十分できていない <b>【W】</b> 情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることが十分できていない	検査 休み明けテスト 授業での活動 など  <b>30%</b>
<b>主体的に学習に取り組む態度</b> <b>【主】</b> (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	<b>【L】</b> 話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている <b>【R】</b> 書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている <b>【Sや】</b> 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている <b>【Sは】</b> 聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている <b>【W】</b> 読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている	<b>【L】</b> 話し手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている <b>【R】</b> 書き手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている <b>【Sや】</b> 聞き手、話し手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている <b>【Sは】</b> 聞き手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている <b>【W】</b> 読み手に配慮しながら、概ね主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている	<b>【L】</b> 話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしているが十分でない <b>【R】</b> 書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしているが十分でない <b>【Sや】</b> 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしているが十分でない <b>【Sは】</b> 聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしているが十分でない <b>【W】</b> 読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしているが十分でない	授業への取り組み 課題 ノート 提出物  <b>20%</b>

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	観点ごとの主な評価対象 (①知技②思判表③主体的)
前	Lesson1 A Colorful Island	●イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について学習する。関係代名詞whatを使える。海外で行ってみたい場所を英語で述べるができる。 ●ラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。比較表現が使える。世代を超えて人気のある人物について、英語で述べるができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	Lesson2 With the Beatles		
試験（勉強集中期間）			
期	Lesson3 Wild Men	●ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。itの用法を理解して使える。身近な行事を英語で紹介することができる。 ●世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。間接疑問文を理解して使える。自分の好きな物語を英語で紹介することができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	Lesson4 Little Hero		
試験（勉強集中期間）			
後	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	●日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。to不定詞を含む表現を理解して使える。日本の伝統文化について、英語で説明することができる。 ●海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。動詞の目的語になるif節を理解して使える。地元で有名な場所やものについて、英語で説明することができる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	Lssson 6 Seeds for Future Generations		
試験（勉強集中期間）			
期	Lesson 7 Over the Wall	●世界の人々と交流する方法について学習する。関係副詞：where, whenを理解し、使える。世界の人々と交流する方法について、英語で述べるができる。 ●生物模倣についてのオンライン講演の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。知覚動詞を理解し、使える。自然界のデザインをヒントにした製品について、英語で発表できる。	①単元テスト、小テスト ②パフォーマンステスト ③毎時の取り組み状況
	Lesson 8 Inspiration from Nature		
試験（勉強集中期間） ★テスト後教科書残りの部分			

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	家庭	科目	家庭総合（2年必修）	単位数	2単位（週2時間・70時間）
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりより社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。				
使用教科書・副教材	家庭総合（実教出版）				
学習上の留意点	(1) 講義、グループ活動、実習、作業など、様々な手法で学習する (2) 発言や話し合いに積極的に参加する (3) プリントファイルを提出し、点検評価を受ける				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために科学的に理解するとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを分かりやすく作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的におおむね理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できていない。 授業内容を発展させた課題・レポートの一部、または全部を作成することができない。	単元テスト 課題 レポート 作品作り
思考・判断・表現 【思】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	家庭や地域、社会の課題や問題を、多面的な視点で考え、解決策を提案することが出来る。	家庭や地域、社会の課題や問題を、自己の視点で捉え、解決策について考えることが出来る。	家庭や地域、社会の課題や問題を十分に理解できない。	単元テスト 課題 レポート 参加状況 作品作り
主体的に学習に取り組む態度 【主】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践しようとしている。	社会や地域の一員であることを理解し、自らの課題解決に取り組むことが出来る。	社会や地域の一員としての自己に気づき、自らの課題があることを自覚することができる。	社会や地域の一員であることの自覚が不十分である。	単元テスト 課題 レポート 参加状況 作品作り

年間指導計画

学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前期	第9章消費行動を考える ①消費行動と意思決定 ②消費生活の現状と課題 ③消費者の権利と責任 ④ライフスタイルと環境 単元テスト	消費行動における意思決定や責任ある重要性について理解を深め、生活情報の収集・整理が適切にできる。  自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫できる。	身近な消費行動について理解する【知】  法律や消費生活の問題を理解し、自分の生活の消費行動を多面的に考える【知】【思】
	第10章経済的に自立する ①暮らしと経済 ②将来のプランニング 単元テスト	家計の構造について理解するとともに、生活における経済と社会とのかかわりについて理解を深める。  生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報収集・整理が適切にできる。	家庭経済の仕組みを理解し、経済的な自立のため職業選択について考えを深める【知】【思】
	第6章食生活をつくる ①人と食物のかかわり ②私たちの食生活	食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人のかかわりについて理解を深める。	自分の食生活について理解する【知】
後期	③栄養と食品のかかわり ④食品の選び方と安全 ⑤食事の計画と調理 ⑥これからの食生活を考える 調理実習 単元テスト	ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。  おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身につける。	栄養学の必要性を理解し、安全で健康的な食生活を営むための方策について考えを深める【知】【思】  調理技術を身につける【知】
	第8章住生活をつくる ①人間と住まい ②住まいの文化 ③住まいを計画する ④安全に配慮した快適な室内環境 ⑤安全な住まい ⑥持続可能な住まいづくり 単元テスト	住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深める。  主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・想像について考察し、工夫する。	住居についての知識を身につけ、自分の住要求について考えを深める。【知】【思】

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	商業	科目	情報処理（2・3学年）	単位数	4単位（年間70時間×2年間）
科目の目標	(1)企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
使用教科書・副教材	情報処理 Prologue Computer（実教出版） 情報処理技能検定試験 表計算 2・準2級問題集（日本情報情報処理検定協会）				
学習上の留意点	(1)Excelなどのアプリケーションソフトウェアを使用し、演題演習等を行います。 (2)実習等はパソコン室で実施します。 (3)Classroomを設定し、追加課題や遠隔授業の送信、検定試験等の案内をします。				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A	B	C	
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能 【知】	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業における適切な情報処理、コンピュータシステムと通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて実務に即して理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	企業における適切な情報処理、コンピュータシステムと通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて実務に即して概ね理解しているとともに、関連する技術を概ね身に付けている。	企業における適切な情報処理、コンピュータシステムと通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて実務に即して十分に理解しておらず、関連する技術を身に付けていない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況  など
思考・判断 ・表現 【思】	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的に根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。コンピュータシステムと情報ネットワーク、ビジネスに関する情報の提供、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに対する要求を分析し、評価・改善している、	・情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。コンピュータシステムと情報ネットワーク、ビジネスに関する情報の提供、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに対する要求を分析し、概ね評価・改善している、	情報処理の意義と課題を発見し、企業活動と関連付けて見いだしている。コンピュータシステムと情報ネットワーク、ビジネスに関する情報の提供、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに対する要求を分析し、評価・改善が十分にできない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況  など
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	企業における情報処理、コンピュータシステムと情報通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	企業における情報処理、コンピュータシステムと情報通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に概ね取り組もうとしている。	企業における情報処理、コンピュータシステムと情報通信ネットワーク、ビジネスに関する情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしていない。	小テスト 学習課題 レポート 授業取組状況  など

年間指導計画				
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)	
前期	第1章 企業活動と情報処理 第1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン 第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。</li> <li>コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。ICT人材に求められる役割と身に付けるべき能力の概要を理解する。</li> <li>情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と、その概要を理解する。</li> <li>企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解する。</li> <li>情報通信ネットワークを理解したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。</li> <li>個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の意義と重要性について考え説明することができる【思主】</li> <li>情報システムに関心を持ち、意義や役割を考え理解する【思】</li> <li>情報の役割を理解し活用するための知識や技術を身に付けている【知】</li> <li>情報を取り扱う上で守るべき法律を理解し、目的と概要を説明できる。【主】</li> <li>ビジネスに活用できるソフトウェアの機能を活用することができる。【知思主】</li> <li>セキュリティ管理に興味を持ち、対策などを考察できる。【知】</li> <li>【思】</li> </ul>	
	勉強集中期間			
	第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列・検索・抽出 5節 問題の発見と解決の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。</li> <li>基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。</li> <li>表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法やデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。</li> <li>事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の重要性について理解し、情報を分析して適切に表現できる。【知】【思】</li> <li>基本的な操作や関数を理解し、表やグラフを作成する技術を身に付けている【知】【思】</li> <li>データの分類や整列、検索、抽出ができる【知】</li> <li>ビジネスに関する問題の発見と解決について自ら学び、主体的・協動的に取り組んでいる【思】</li> <li>【主】</li> </ul>	
勉強集中期間				
後期	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 5節 応用文書の作成 第5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。</li> <li>ワープロの利用に関する知識と技術を習得し、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領に関する知識と技能について理解する。</li> <li>ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解し、基礎的な技法を身に付ける。</li> <li>各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種文書の役割や構成要素などについて理解できる【思】</li> <li>ワープロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、機能などを理解できる【思】【主】</li> <li>プレゼンテーション活動の意義や役割を理解し、プレゼンテーションの一連の流れや基本的な技法を身に付けている【知】【思】</li> </ul>	
	勉強集中期間			
後期	情報処理技能検定の資格取得 1 表計算の基礎知識 2 関数と計算式 3 熟度別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算ソフトの操作技術に必要な基礎知識を理解する。</li> <li>計算式と関数を用いたワークシートの作成技術を理解し、その応用力を学習する。</li> <li>自己の理解力と学習意欲に応じた教材を用いて、資格取得を目指す。</li> <li>表計算以外でも、入力スピード検定等の対応も実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算の特性を学習し、各取得級に応じた技術と、制限時間内での完成を達成することができる。</li> <li>希望者は4級～1級までのいずれかの資格を取得する。</li> <li>高度な関数を理解し駆使することで、効果的なグラフの作成やプレゼンテーションの提示を期待できる。すべて【知・主】</li> </ul>	

令和8年度 北海道月形高等学校シラバス（授業概要・評価基準・年間指導計画）

教科	家庭	科目	生活と福祉（2年選択）	単位数	2単位（週2時間・70時間）
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。				
使用教科書・副教材	家庭総合（実教出版）				
学習上の留意点	(1) 講義、グループ活動、実習、作業など、様々な手法で学習する (2) 発言や話し合いに積極的に参加する (3) プリントファイルを提出し、点検評価を受ける				

評価基準・評価方法

評価の観点 (身に付けたい力)		観点別学習状況の評価基準			評価方法
		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する	
知識・技能 【知】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを分かりやすく作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的におおむね理解できている。 授業内容を発展させた課題・レポートを作成することができる。	各種用語や事象の意味を科学的に理解できていない。 授業内容を発展させた課題・レポートの一部、または全部を作成することができない。	単元テスト 課題 レポート 作品作り
思考・判断 ・表現 【思】	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	家庭や地域、社会の課題や問題を、多面的な視点で考え、解決策を提案することが出来る。	家庭や地域、社会の課題や問題を、自己の視点で捉え、解決策について考えることが出来る。	家庭や地域、社会の課題や問題を十分に理解できない。	単元テスト 課題 レポート 参加状況 作品作り
主体的に 学習に取り組む態度 【主】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践しようとしている。	社会や地域の一員であることを理解し、自らの課題解決に取り組むことが出来る。	社会や地域の一員としての自己に気づき、自らの課題があることを自覚することができる。	社会や地域の一員であることの自覚が不十分である。	単元テスト 課題 レポート 参加状況 作品作り

年間指導計画			
学期	単元・学習内容	学習のねらい (単元の目標)	評価の観点 (身に付けたい力)
前 期	第3章子どもとかかわる ①子どもとは ②子どもの発達 ③子どもの生活 絵本づくり ④子どもをはぐくむ ⑤子どものための社会福祉 単元テスト	乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身につけること。  子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めること。  子供を生み育てることの意義や、保育の重要性について考え、子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察する。	子どもの発達について理解する【知】  自分の成長を振り返り、自己理解を深める【思】  保育環境や福祉について理解する【知】【思】
	第4章高齢者とかかわる ①高齢社会と生きる	高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深める。	高齢者の生活について理解を深める【知】
後 期	②高齢者を知る ③高齢者の自立を支える ④高齢社会を支えるしくみ 高齢者との交流	高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を身につける。  高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。	少子高齢化の課題について、考えを深め、自分のできることを実行できる【知】【思】
	第5章社会とかかわる ①支えあって生きる ②共生社会を生きる 単元テスト	生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。  家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めること。	日本の社会保障制度や社会福祉について理解を深める【知】  新しいコミュニティの在り方を考察できる【思】